

1. 毎日の健康

1-8

聞こえにくい

老人性難聴は程度の差はあれ、誰にでも起こるものです。加齢にともなって、耳の組織の弾力性が低下して、音波に対する反応が鈍くなって起こります。

○まず、高い音（女性や子どもの声）が聞きづらくなります。
低めの声でゆっくり話しかければ会話できます。

○低音域（低い音）にまで範囲が広がると補聴器が必要になります。
補聴器による会話になれるまでは訓練が必要ですが、本人に合ったものを専門家に選んでもらい、根気よく取り組めば誰でも使いこなせます。聞こえないままにしておくと、周囲への関心も薄くなり認知症の危険性が高まります。

○他には、耳あかがたまって音が耳に届かなくなる伝音難聴もあります。軽度の難聴と熱や痛みがある時は滲出性中耳炎の場合もあり、この場合には、耳鼻科治療でよくなります。



お問合せ先

西保健所 保健予防課

TEL.(052)523-4619 FAX.(052)531-2000